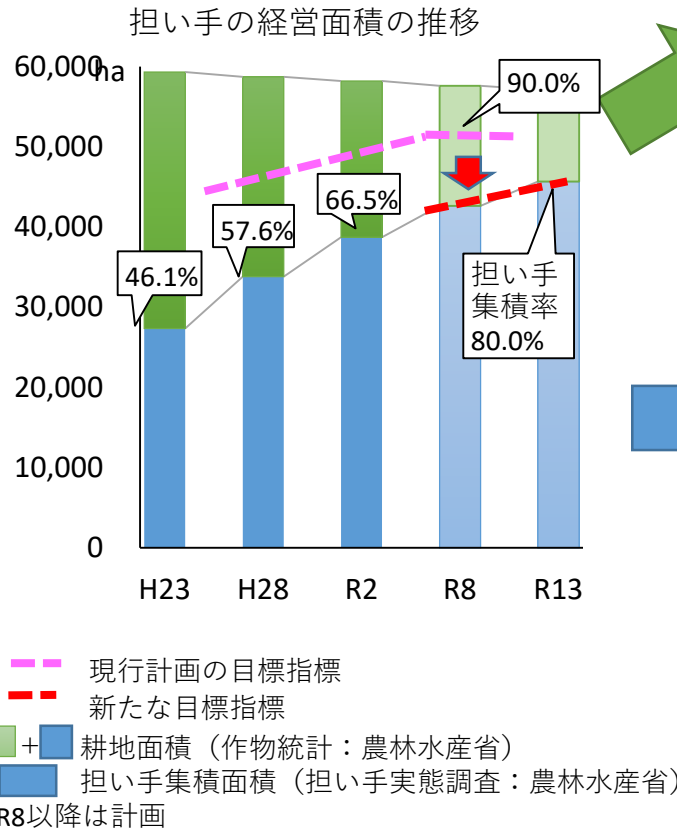


担い手への農地集積により、生産性の高い農業を目指す。農地基盤の整備されていない中山間地域等では、担い手不在・条件不利農地など農地集積が難しいことから、兼業農家や半農半Xなど多様な人材の関わりにより、地域農業の維持を図る。

農地

担い手への農地集積を引き続き推進。中山間地域等の特性（条件不利地、多様な人材による農地の持続的利用など）を踏まえ、担い手集積率の目標を見直し



地域農業の維持

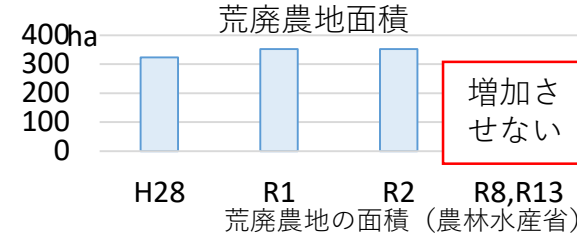
多様な人材

担い手不在地域では、「農地を将来にわたって持続的に利用すると見込まれる」多様な人材を確保

- ⇒ 兼業農家の農地維持と円滑な継承
- ・半農半Xの活動を地域で受け入れる土壌づくり
- ・遊休化の恐れのある農地と農業者等(移住者等含む)とのマッチング
- ・福祉事業者の農業参入、農福連携による繁忙期の人手確保

農地の管理

- ・中山間地域等の特色を活かした農産物生産
- ・粗放的管理による農地維持の検討



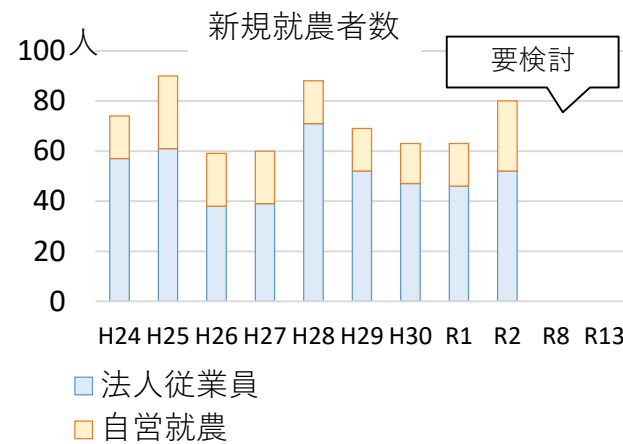
地域農業に関わる人材

- 【農林漁業体験】
- 【農村環境保全活動】
- 【兼業農家】【半農半X】

担い手の育成

新規就農者の確保

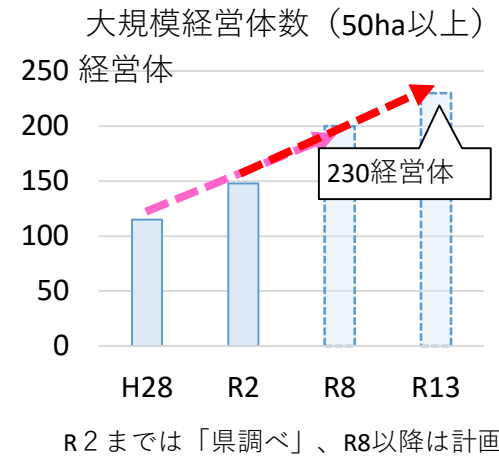
園芸生産の拡大と高齢化に対応した担い手人材の確保を目指す



⇒ 新規就農者(移住を含む)を産地や地域で受け入れる体制づくり

担い手の経営基盤強化

経営規模拡大や組織合併により、大規模経営体をさらに育成

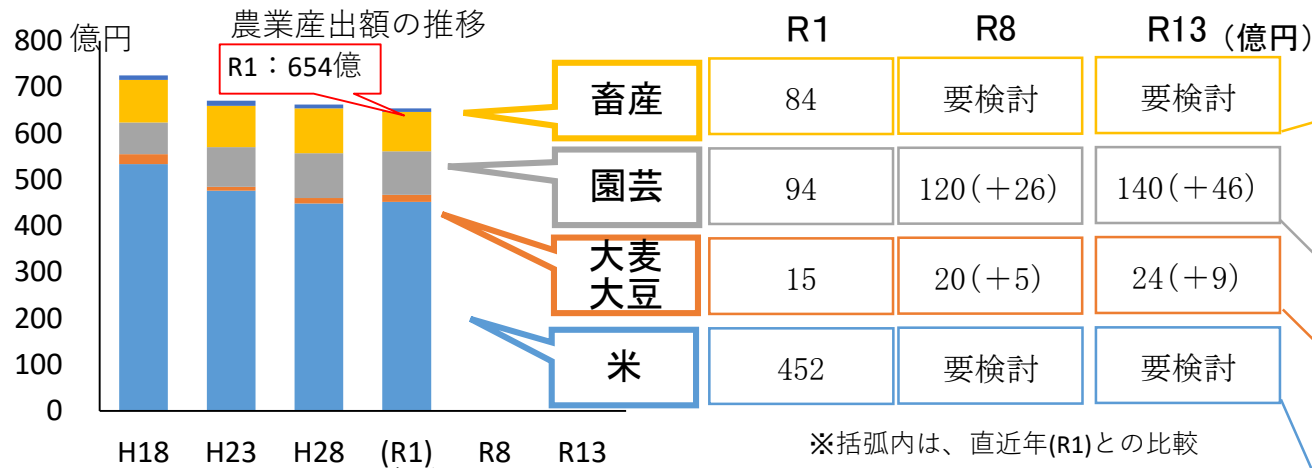


農業経営のめざす姿

- 【とやま農業未来カレッジ】
 - 【新規就農者】 所得250万円/主たる従事者1人
 - 【平均的な担い手】 所得332万円/主たる従事者1人
 - 【標準タイプ】 所得500万円/主たる従事者1人(1.5人家族)
(例)水稲15ha、大麦・大豆7ha、チューリップ球根、切り花
 - 【発展タイプ】 所得750万円/主たる従事者1人(役員等3人)
(例)水稲21ha、大麦・大豆11ha、りんご・もも
- とやま型農業経営モデル(H30策定)**
 (主穀作+園芸で周年で所得と人材を確保)
 ①メガファーム(主穀作の規模拡大と園芸導入)
 ②6次産業化(主穀作+園芸の直売や観光農園等)
 ③集落営農雇用(主穀作+園芸の導入で従業員雇用)
 ④園芸重点(水田フル活用による園芸の重点的拡大)
 ※①のタイプでは、所得1,000万円/主たる従事者1人に迫る法人経営体の例もあり
 (参考)農産物売上1億円以上の経営体数(農林業センサス)
 H27:27経営体 → R2:47経営体

農業産出額

主食用米の全国的な需要減少を念頭に、非主食用米の生産拡大を図るとともに、園芸、畜産、大麦、大豆の産出額を拡大する。



推進方向

- ・畜産生産基盤の強化による生産拡大
- ・デジタル技術等の活用による生産性の向上
- ・県産畜産物の有利販売の推進
- ・機械化体系が確立している品目の生産拡大(野菜:約500ha増(たまねぎ、にんじん、キャベツ等))
- ・果実:約100ha増、花き:約76ha増
- ・周年雇用が可能な施設園芸の導入、農業従事者の確保
- ・需要の高い麦・大豆の生産性の向上(約1,200ha増)
- ・温暖化等に対応した農産物の生産(富富富の生産拡大)
- ・新市場開拓用米(主に輸出用米)等、非主食用米の生産拡大

新たな「富山県農業・農村振興計画」(目標年次：令和13年度)

- 基本目標**
- 持続可能な「競争力の高い農業」と「豊かで美しい農村」の実現
- 農業**
- 生産性・収益性の向上や担い手の育成・確保が図られ、農業所得が増加
- 農村**
- さまざまな地域資源の活用や多様な人材の育成、都市住民との交流などにより、豊かで美しい農村が形成

「生産農業所得統計(農林水産省)」